



COMPANY'S
CHALLENGE

NO.72



体験を交えたオンラインツアーを 未来のリアル観光につないでいく

株式会社グローバルプロジェクト 代表取締役 河崎 靖伸氏

地域の宝探しを通じ 観光の魅力を創出

2016年の設立以来、外国人観光客と地方の観光をマッチングしてきた福岡市中央区大名の株式会社グローバルプロジェクト。インバウンド活況の時流にも乗り、隣国の韓国では九州各地のPRを担ってきたほか、地方創生を目的として各地の観光資源の発掘に携わってきました。

代表取締役の河崎靖伸さんは会社員として観光事業に携わる中、観光資源をつくりだすコンサルティング、それを商品化する旅行会社、そして集客を行う広告会社がそれぞれの立場から事業に関わっていることに課題を感じていたといいます。「実際に観光プロジェ

クトを生み出すためには3~4年というスパンが必要になる一方で、企画立案から集客までそれぞれを担う業種も違います。そのため全てを一気通貫し、じっくりと取り組むことができる会社をつくりたかったのです」と創業時を振り返ります。

そうして取り組みはじめたのが観光マーケティングという仕事でした。「観光において地方創生はひとつのキーワード。高齢化、過疎化が進む地方には観光による交流人口が欠かせません」と河崎さん。福島県と復興庁と連携し、福島の観光商品をアジアへ展開するための調査事業に取り組んでいた2020年、新型コロナウイルス感染症の拡大により事業そのものが停止に。観光業界が大打撃を受ける中、河崎さ

んは「福岡の観光は食と切り離すことはできません。このままでは飲食店がなくなってしまうという危機感がありました」と、SNSを活用して福岡博多テイクアウト応援プロジェクトをスタート。掲載を希望する飲食店の情報を無料で発信し続けました。

観光もテイクアウトする時代 オンラインツアーが活路に

「テイクアウトの情報を伝えていく中で、旅もテイクアウトできないかと始めたのがオンラインツアーです。インバウンド事業で取引していた着物のレンタル会社もコロナ禍により苦しんでいたため、自宅で浴衣を着て花火の映像を楽しむ企画を立ち上げました」。

【プロフィール】

熊本県出身。広告業界や観光業界での勤務を経て2014年に独立。地域創生を目的とした観光企画の立案や集客などのマーケティングプロジェクトに携わり、2016年に株式会社グローバルプロジェクトを設立した。



1 海外のバイヤーに向けては、地方の農産物などを提案。「地域によっては人を呼ぶよりも、物を動かしたほうが良いケースもある」と河崎さん

3 オンラインツアーにはパソコンなどの機器を使って参加。地元の人やほかの参加者とのコミュニケーションもひとつの魅力

2 ツアー先からパソコンを使ってライブ配信を行う地元の観光事業者たち。入念にリハーサルを行うなど、準備にも力が入る

4 オンラインショップ「買うくる」では旅先でしか味わうことができない、生産者のこだわりの逸品を購入できる

そうして2020年8月に開催した第一弾のオンラインツアーの参加者は約20人。思いのほか喜びの声も多く、本格的に事業を開始しました。

そのオンラインツアー「たびくる」では、グローバルプロジェクトのスタッフや現地の観光事業者が実際に観光地を訪れライブ配信。観光地の風景を届けるほか、現地の人々との交流の機会をつくり、また事前に参加者に届けておいた体験キットを活用したワークショップを盛り込むなど、さまざまなコンテンツを提供しています。これまでに福岡、熊本、長崎、沖縄、北海道などのツアー22本を開催し、参加者は延べ800人超。現在では企業の社員旅行や研修などでの問い合わせも増えているそうです。

「リアルであるからこそ観光だと、最初是否定的に見られることもありましたが、オンラインツアーはデジタルを使った新しい観光の形です。コロナ禍が収束したとしても、変化をしながら残っていくのではないのでしょうか。現代は個の時代で、観光でも一人旅が当たり前になっているものの、コロナ禍によって人との関わりはさらに激減して

います。そうした中、オンラインツアーでは、知らない人たちと気軽にコミュニケーションができます。新たな交流の場としても、オンラインツアーは活用できるはず」と期待を込めます。グローバルプロジェクトではオンラインショップもオープン。従来であればお土産として購入されている地域の特産品を販売するなど、新たな事業に挑戦し続けています。

ゼロベースの発想で 大きな事業転換を

今後の観光業界について、河崎さんは「ビフォーコロナに戻ることは難しいでしょう。長い自粛期間でいまの生活に慣れてしまうと、考え方も変わってきます」とした上で、「一度ゼロベースで考えることが重要です。旅館やホテルのように人を集める商売は難しい時代になりますから。例えば宴会場をリフォームしてワーケーションに活用するなど、新しい発想が必要です」と話します。

グローバルプロジェクトでは、今後、オンラインツアーの海外展開も検討。

そうした取り組みが、コロナ禍を乗り越えた未来、観光地を実際に訪れるきっかけになるのではないかと、河崎さんは考えているそうです。

「コロナ禍というのは観光業界にとってひとつの大きな衝撃ではありましたが、大きく何かが変化するタイミングとしても捉えることができます。それぞれが持っていたノウハウのアウトプットを変えていけば、新たな事業も生まれるはず。オンラインツアーも同じ。いつかツアーを利用してくださった皆さんが、ここで出会った観光地の人たちに会いに行ってくれれば嬉しいですね」。

取材日：6月25日

GLOCAL
PROJECT

株式会社グローバルプロジェクト

〒810-0041 福岡市中央区大名2-10-3 C1007
TEL 092-738-6565
<https://glocal-project.com>

関連ページP4〜7